

そうだ、京都を歩こう。

## 京都 京都トレイル（東山&西山）

いよいよ年末年始。いつもなら雪山の計画を練る時期だが、今回それは叶わない。なんせ、私はリハビリハイカー。12月は近郊の低山で歩きの慣らし保育中である。で、今回はどうすっぺかなーと考えていたところ、「そうだ、京都に行こう」。まさにJRの広告を見てピンときたのだ。京都トレイルがあるではないか。

雪の心配もそれほどなく、街に近い。東山・北山・西山でセクションハイクが楽しめる。しかも、寺や神社もあり、初詣もできる。行きたいお寺もあるし、銭湯めぐりもしたい。街に近いのだから観光も楽しめるものよ。う～ん、私って冴えすぎ！ さっそくりハビリハイカー仲間の福永さんを誘い、31日の夜行バスで京都へ向かった。

### 【日程】

2018年1月1日（月）～  
3日（水）

### 【メンバー】

松本（L）、福永

### 【地形図】

京都東南、東北、西南、大原、  
周山

### 【記】松本

### 1月1日（月）：曇り 京都東山その1

早朝、4時50分京都駅八条口にバスは無事到着した。あたりは真っ暗で「なか卯」の看板だけがやたらに明るい。ここまできてなか卯というのねえ。電車は元旦のため終日運行している。ここに長居してもしかたないので、スタート地点の伏見桃山駅へ向かう。今日は東山を歩く。京都トレイルとは地元の京都府岳連が設定したトレイルのようで、地形図にも『山と高原地図』にもルートは出ていない。地図は別に発売されており、それを見ると山と街の間を縫うようにルートが設定されている。つまり、信越トレイルや高島トレイルのようにずっと山中を歩くわけではなく、街と山を行ったり来たりするのだ。観光地と山をうまく組み合わせたルート設定は京都ならではの、心憎い演出である。また、ポイントごとに番号がふってあり、それを順にたどって行くので、オリエンテーリングのようでもあるのだ。

伏見桃山駅に着いても夜は明けない。駅の近くにあったファミマに入って朝食を買う（だったらなか卯でもよかったような気がする）。乃木神社が最初のポイントで、ここで私たちは初詣。お賽銭をあげようと10円を手にしたとき、この先どれだけ観光地京都でお参りするんだろうか？ そう思うとすぐさま1円に切り替えた。

トレイルはますます暗い森が続いていた。

なにも見えない、鳥の鳴き声が怖い。悪霊島（BY 横溝正史）を思い出す。「へっでん出したほうがいいね」と福永さんは言ったが、私のへっでんはザックの底で出すのが面倒くさい。ちゃっかり福



伏見稲荷神社の千本鳥居通過中

永さんの照らす足元を頼りにうしろを歩く。この暗い森は天皇陵だった。両脇には「明治天皇」や「桓武天皇」のお墓がある。桓武天皇っていつの時代だっけ？ 昔習ったことは忘却の彼方、それ以上は考えないことにした。白々と夜が明けてきたころ、ふたりの大人は必死にトレイルの番号を追っていた。「●番どこ？」「こっちにあったー！」と新年早々、他県の住宅地で歓喜の声を上げている姿は客観的にもかなり滑稽。でも意外と楽しいのも事実、いつでも遊び心を忘れない私たち、すてき。

トレイルは本日最大の見せ場・伏見稲荷神社へと向かう。実は東山トレイルは当社、伏見稲荷神社が起点だったが、これまで歩いてきた道（伏見・深草トレイル）が追加になり距離が延びたのである。伏見稲荷神社は赤い千本鳥居が有名。その下を初詣客が連なり、私たちもそこに吸い込まれる。やがてトレイルは神社を離れいったん街へ下る。新幹線や東海道本線を越えるとトレイルは東山ドライブウェイと並走する。東山の右手は山科、左手が京都。最後は粟田神社へ下山。これにて本日分は終了。トレイルの「29番」でおしまい。宿に行く途中、八坂神社と安井金比羅（有名な縁切り寺）に立ち寄ったがものすごい人で早々に退散した。有名な縁切り寺は女性参拝者が多かったが、なにと縁を切りたいのだろうか？ ちなみに私はケガと、福永さんは病氣と縁を切るのが目的である。

#### 1月2日（火）：曇り、山浴いは雪 東山その2

朝早く、宿泊したゲストハウス（ほとんど外人客）を出発。きのうの終了地点「29番」へ向かう。途中、縁切り寺と八坂神社でお参りする。早朝だから誰もいない。すがすがしい空気のなか、ゆっ

くりとお参りをする。縁切り寺ではお賽銭を大奮発100円、八坂神社はやや奮発10円（通常料金か）。29番そばのローソンで行動食を購入し、準備を整えて出発。めざすは蹴上の「ねじりマンポ」だ。ところが「インクライン」の船を見ていたら（昔、大津と京都を水路で結んでいたときの輸送船）、まったく反対方向に進んでいることに気づく。慌てて戻り、ねじりマンポへ。これは正式には「蹴上トンネル」といい、レンガを斜めに積み上げて作られたため、壁がねじれている特殊な構造のトンネルである。これをくぐり日向大神宮から大文字山へ登る。大文字山は関西でも人気の低山で、お盆の「五山の送り火」で知られる。正月2日目とはいえ、山頂は関西人ハイカーでにぎわっていた。おばちゃんが「あべのハルカスはどこお？」と大声で言っている。「あっこに見えるヤツや」と仲間のおっちゃんが指さすほう



安井金比羅で縁切り中。お札を貼った岩をくぐり抜けることで、縁が切れる。病氣と縁きり中の福永さん

を見ると、はるか彼方霞の中に高いビルが見えた。関東でいう「スカイツリーはどこ？」と同じで、シンボルなのだろう。さて、東山トレイルはここからいったん銀閣寺に下り、哲学の道を北上し、再び山に入り、最後は比叡山で終わる。比叡山は今回のトレイルでいちばん高い848m。ところが山道に入り、瓜生山を越えると、どんどん気温が下がっているように感じられた。北の比叡山のほうは雪雲がかかっている。比叡山は雪かも。福永さんが「古野さんが雲母坂というところから比叡山に登ってみたいってメールに書いてあったよ」と話す。「きらら」という名前が古野さんの乙女心をくすぐるのだろうか。その雲母坂はちょうどエスケープルートでもあった。比叡山へのトレイル

を見送り、雲母坂経由で修学院駅へ下山に変更する。ところが入った道は谷っぽく、暗くてまったくきらきらしていない。おまけにひざまでの枯葉ラッセルだ。なんかここ違うんじゃない？的空氣が私たちを包む。第一方向がおかしい気がするが、黙って下り続ける。ようやく登山口に出るとデカデカと「梅谷登山口」とあった。私たちは雲母坂の1本北の梅谷を下っていたのだ。きらきら乙女にはなれない、梅ばあちゃんのアホな下山劇でした。

### 1月3日(水)：曇り、山浴いは雪 西山

本日は北山を歩く予定だった。しかし、きのうの夕方から冬型が決まり日本海側は雪予報。冬型が強いと京都の北山は雪の可能性も。ということで、北山にも西山にもどちらにも行ける起点・高雄へ向かうことにした。そこで決めよう。夜が明けない早朝に宿を出発。四条大宮まで歩き、高雄行きのバスに乗った。バスはゆるやかに標高を上げ、高雄に到着。バスを下り、北山方面を見ると山肌はうっすら雪化粧している。雪も降っている。西山に変更するしかない。

高雄から京都トレイルは清滝川沿いにつけられている。一部北山トレイルが続き、清滝というところから西山トレイルになる。本日も番号を追いつながら歩くのは変わらないが、溪谷沿いの遊歩道歩きなのでこれまでとは景色が違う。ちらちら雪が舞う。こんな時期に川沿いを歩くのはかなり酔狂だなあと思う。でも「やっぱり私は沢やだからねえ」と福永さんご機嫌だった。常に前向きな人である。清滝に着くといよいよ雪が本降りに。駐車場には登山者がいて、その人たちはこの雪降る中、愛宕山に向かっていく。ここにも前向きな人たちがいた。愛宕山も関西では人気の山だが、京都トレイルは愛宕山にはつけられていない。さら川沿いを進み、保津峡との分岐で清滝川から離れ、六丁峠を越える。うねうねした峠道(舗装路)を歩く。沢やが川から離れると元気がなくなるようだ。ひたすら無言。峠を越え、嵯峨野に入ると晴れ間も出て明るく、ほっとする。竹林で有名な嵯峨野。「御髪神社」というのがあったので寄ってみる。その名のとおり髪の毛の神社で全国でもここだけらしい。参拝者も美容学校の生徒らしき人が多い。国家受験のお参りかな。絵馬を見ると「もっと健康的な生活を送りますから、云々」「もうこれ以上、云々」などなど、合格祈願よりも悲痛な叫びが多く、胸に突き刺さる。私たちが今後のためにお参りする(ここは10円)。嵯峨野からさらに観光地・嵐山へ出て西山トレイルは終了とする(さらに西山トレイルは上桂駅まで続く)。嵯峨野も嵐山も初めての私。テレビ『科捜研の女』ファンとしてはエンドロールでよく登場する渡月橋に感動。渡る必要もないのに渡月橋を往復して、気分は沢口靖子。こうして、お正月リハビリトレイルを終えたのであった。



保津峡方面を望む。寒々しい景色に心も体も震える。ここから六丁峠を越えて、嵯峨野へ

### 【行程】

- 1/1 東山① 伏見桃山駅～伏見稻荷大社～粟田神社
- 1/2 東山② 粟田神社～蹴上～大文字山～銀閣寺～瓜生山～梅谷登山口
- 1/3 西山 高雄～清滝～六丁峠～嵯峨野～嵐山駅